

DIVERSITY

ダイバーシティ 2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）

令和4、5年度活動報告書



ものづくり地方都市における 工学系女性研究者の 育成・支援

CONTENTS 目次

I. ダイバーシティ研究環境推進体制と取組概要

1. 目標・行動計画	03
2. 取組概要	04
3. 実施体制	05

II. 活動報告

1. 女性研究者採用・登用人事の推進	06
2. 組織全体の意識改革	
・ダイバーシティ研究環境実現シンポジウム	07
・ダイバーシティ外部評価委員会	09
・ダイバーシティ授業（2単位）	13
・「オレンジ・デー」啓発の取組	16
3. 女性研究者の研究・キャリア支援	
・女性のための管理職セミナー	17
・優れた女性研究者賞、女性躍進賞	19
・すそ野拡大啓発活動	20
4. ライフイベント支援	
・ライフイベント時の研究支援者制度	27
・夜間、休日、病児・病後児、学童保育の利用料補助制度	28
・ライフイベントによる研究中断からの復帰支援研究助成制度	29
・ワーク・ライフ・バランス相談室	30
・学長とのワーク・ライフ・バランス懇談会	31
・学内一時託児	32
・男性の育児休業取得促進	32
・介護準備セミナー	33
5. 地域・企業連携	
・ダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会としての活動	34
・ダイバーシティ連携機関・協力機関会合兼コンソーシアム総会	37
6. 広報活動	
・ニュースレター発行	38
・ホームページによる情報発信	39

III. 事業活動記録

・令和4年度	40
・令和5年度	42

I. ダイバーシティ研究環境推進体制と取組概要

1. 目標・行動計画

- 実施予定期間 2019(令和元)年度～2024(令和6)年度

- 女性研究者等の活躍促進に向けた目標・行動計画

1. 長岡技術科学大学

中期目標・中期計画の中で、2021年度までに、「女性教職員の採用及び管理職への登用のほか、仕事と家庭が両立できる働きやすい環境づくりを推進し、女性教員の割合を概ね15%に、管理職に占める女性割合を概ね20%」と明記した。

また、「優れた若手研究者、女性研究者を養成し、高水準の研究遂行に資するため、研究室・実験室の提供と研究活動経費等を支援する体制を整備する。40歳未満の若手教員の割合が31.1%となることを目指す」とし、公表した。

2. 長岡工業高等専門学校

国立高専機構の中期計画「女性教員の積極的な採用・登用を推進するとともに、女性教員の働きやすい環境の整備を進める。」「男女共同参画に関する情報を適切に提供するとともに、ワーク・ライフ・バランスを推進するための意識醸成等環境整備に努める。」に基づき、長岡高専の年次計画を「女子教員の働きやすい環境整備を継続的にすすめる。また、定期的な女性教職員の懇談会を開催し、職場環境に関する情報共有や改善提案の収集に努める。」「男女共同参画室員を研修会や講演会に積極的に参加させ、学内で報告会を開くなどして情報を共有する。」「女子学生向けのワーク・ライフ・バランス講演会を実施する。」を明記し、公表した。

3. 株式会社イトラスト

女性研究者の活躍推進として、女性研究者のキャリアプラン構築を支援することにより「女性研究者が活躍し、多様な価値観が職場に反映され業績向上に貢献する」「新たな女性研究者リーダーを輩出する」ことを目標に掲げている。

2. 取組概要

1. 連携体制による支援基盤の確立

「ものづくり地方都市の持続的発展に向けたダイバーシティ環境の実現」をテーマに、3機関が連携して、仕事と生活を両立させながら、女性が能力を発揮できる環境を整える。女性の研究力やマネジメント力を強化する取組を行うことで、優れた工学系女性研究者を増やし、女性の採用や上位職の増加につなげる。

2. 目標達成に向けた取組

- (1) トップの強力なリーダーシップによる女性研究者の採用・登用
- (2) 組織全体の意識改革
- (3) 女性・若手研究者の研究・キャリア支援
- (4) ライフイベント支援
- (5) 教育研究機関・企業・地域の連携による女性・若手研究者の育成

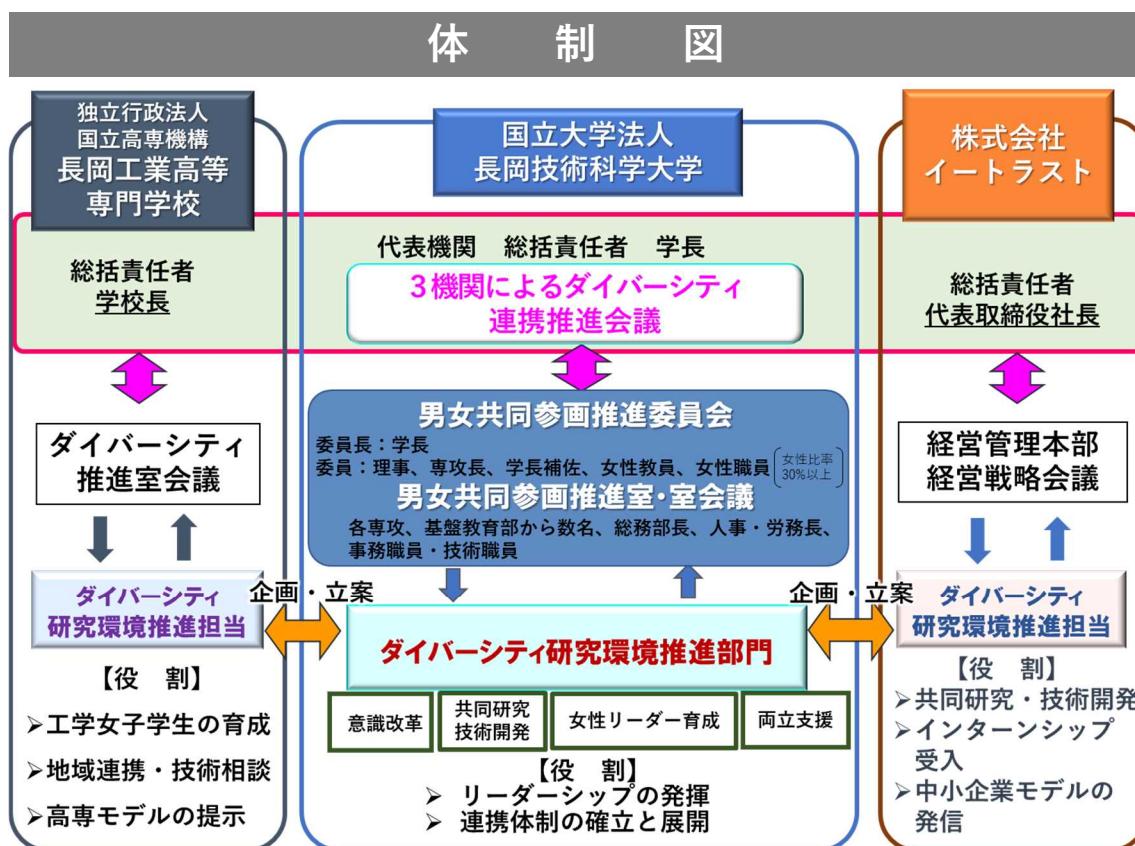
3. 連携3機関と協力機関との継続的な情報交換

課題を共有し成果を発信することで地域への波及に努める。



3. 实施体制

連携体制については、長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校、株式会社イトラストの長によって構成される「連携推進会議」（メール審議を含む）を都度開催するとともに、各機関にダイバーシティ推進担当部署または担当者を置き、連絡調整を行いながら、十分な協議を経て取組を進めている。各機関が全組織をあげて取り組む体制が確立している。



Ⅱ. 活動報告

1 女性研究者採用・登用人事の推進

(実績：H30 は 5.1 現在、R1～5 は 3.31 現在の数値)

1-1 女性研究者在職比率年次計画

機関 \ 年度		H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
長岡技術科学大学	目標		10.5	12.0	14.5	15.5	16.0	16.0
	実績	9.0	8.9	11.4	12.9	14.5	14.7	
長岡工業高等専門学校	目標		12.5	13.5	15.0	14.8	17.8	18.0
	実績	11.8	12.2	13.7	15.1	13.9	15.3	
株式会社イトラスト	目標		6.9	6.7	9.7	9.4	12.1	14.3
	実績	3.7	3.7	5.9	12.1	12.8	15.2	

1-2 指導的地位（上位職）における女性研究者の在職比率計画

機関 \ 年度	H30 実績	R1 実績	R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標
長岡技術科学大学	7.9	8.2	11.0	10.2	12.8	13.1	12.2
長岡工業高等専門学校	7.2	7.8	9.7	11.7	9.8	11.7	17.6
株式会社イトラスト	3.1	3.1	3.1	3.1	3.1	3.2	6.3

(注) 指導的地位（上位職）：学長、副学長、理事、部局長、教授、准教授
取締役会長、社長、副社長、部長、課長

1-3 女性限定公募・女性優先公募の実施（令和4、5年度）

- ・長岡技術科学大学 女性限定公募を延べ4件実施
- ・長岡工業高等専門学校 女性優先公募を延べ5件実施

2 組織全体の意識改革

2-1 ダイバーシティ研究環境実現シンポジウム

連携機関に所属している教職員・社員や一般の方に、ダイバーシティ推進のための意識改革及び本事業の取組について周知することを目的にシンポジウムを開催している。

<令和4年度>

「ダイバーシティ推進はえちご・ものづくり業界に何をもたらすか」

日 時 令和4年11月30日(水) 13:30 ~ 14:45

会 場 Zoomによるオンライン配信

講 師 渥美 由喜氏
(ダイバーシティ & WLB コンサルタント、
内閣府地域働き方改革支援チーム委員)

対 象 連携・協力機関に所属する教職員、学生、広く
一般の皆様

主 催 長岡技術科学大学

共 催 長岡工業高等専門学校、(株)イトラスト、
えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソー
シアム準備委員会

内 容 女性研究者・技術者が少ない工学系のものづくり業界。性別、性的指向・性
自認、年齢、障がい、国籍といった多様な属性や生活背景をもつ人々が個々
の能力を発揮して生き活きと働ける。そんな職場・研究環境を整えていくこ
とは、えちご・ものづくり業界にどんな波及効果をもたらすのか。文部科学
省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の事業報告とともに、渥美由喜氏による講演会を行った。多様な
人材の活用による新たなイノベーションや、社会的信頼性の向上などについ
て考える機会となった。

参加者 86名



<令和5年度>

「ビッグデータが導く革新と可能性～経済産業省が推し進める Fem Tech を活用することで私たちの日常はどのように変化するのか～」

日 時 令和5年11月29日(水) 13:00～14:45

会 場 オンラインと対面のハイブリッド開催
(長岡技術科学大学マルチメディアシステム棟
会議室)

講 師 日根 麻綾 氏
(株式会社エムティーアイ執行役員)

対 象 連携・協力機関に所属する教職員、学生、広く
一般の方

主 催 長岡技術科学大学

共 催 長岡工業高等専門学校、(株)イートラスト

後 援 新潟県、長岡市、長岡商工会議所

内 容 Femtech(フェムテック)とは、Female と Technology を組み合わせた造語で、女性の健康課題をテクノロジーで解決する製品やサービスを指すもの。生理日管理ツール「ルナルナ」の開発・運営をおこなっている「株式会社エムティーアイ」執行役員・日根麻綾氏を講師にお招きし、ビッグデータを活用したアプリ開発秘話や Femtech の経済効果、女性の健康課題への理解の重要性等についてご講演いただいた。

参加者 200 名



講演を行う 日根氏



会場に集った参加者ら

2-2 ダイバーシティ外部評価委員会

毎年、有識者からなる外部評価委員会を開催し、ダイバーシティ研究環境実現に向けた事業実施体制の確立と5つの柱（1. 女性研究者採用・登用人事の推進、2. 組織全体の意識改革、3. 女性研究者の研究キャリア支援、4. ライフイベント支援、5. 地域・企業連携による女性研究者支援）について、進捗状況を報告している。委員から取組への評価と併せて改善のアドバイスをいただき、その内容を公表している。

<令和4年度>

「令和4年度ダイバーシティ外部評価委員会」の開催

令和4年度外部評価委員（敬称略）

氏 名	所 属 等	推薦機関
平山 けい	阿南工業高等専門学校 前校長	長岡技術科学大学
五味 由紀子	株式会社 GFN 代表取締役	長岡工業高等専門学校
山田 康博	税理士法人ながおか会計 所長 (一社) 地域ルネッサンス創造機構 シンクタンク・ザ・リバーバンク理事	株式会社イートラスト
伊藤 公雄	京都産業大学 教授 ダイバーシティ推進室長	長岡技術科学大学

日 時 令和5年2月6日（月）15：30 ～ 16：30

会 場 Zoom によるオンライン会議

参加者 ・外部評価委員4名
・ダイバーシティ連携推進会議4名
・各機関担当者（長岡技科大、長岡高専、イートラスト）8名（計16名）

日 程 (1) 開会挨拶 長岡技術科学大学 鎌土 重晴 学長
(2) 代表機関報告
(3) 共同実施機関事業進捗報告
(4) 質疑応答 15分
(5) 講評 20分
(6) 評価を受けて
(7) 閉会挨拶 長岡工業高等専門学校 小林 幸夫 校長

● 講 評

◎平山委員から

自走機関でこれまでの規模を縮小なく動かれていることは素晴らしい。コンソーシアムは今後、地域や企業を巻き込んでいく大切な役割を担うだろう。その際、自治体との連携が重要になるので、自治体を巻き込んで、長岡市の事業と連動できるような方向性を見出せると良いと思う。地域企業だけでなく、今後、自治体へのアプローチにも期待する。

◎五味委員から

取組に広がりが見られる点は評価できる。属人化や管理職の意識改革は製造業に限らずどの領域でも課題となっていると思うが、組織として進めていかないと、個人の頑張りだけではどうなるものでもない。コンソーシアムで行う課題解決の取組については、自治体の取組との差別化を図る意味でも、本事業の連携3機関がモデル的な役割を果たしながら取り組んでいただけるとよいと感じた。

◎山田委員から

私は業務上、地域の中小企業との関わりが多いが、女性が管理職になりたい、なりたくないと思う意識の差があるのではないかと思います。女性管理職を増やすことで組織内でより活発な議論がなされて活性化されていくのは間違いない。管理職の業務分掌を明確にしていくことが「管理職って大変そう」「時間の融通が利かなさそう」という印象を払拭することになるのではないかと。組織の中の業務の分析、役割分掌をして生産性を高めるとモデルケースになっていき、地域に波及すれば価値あることだと思うので、今後、検討してほしい。

◎伊藤委員から

組織風土改革の基盤となるのは、コミュニケーションなので長岡技科大も長岡高専も懇談会を進めているのは良いことだと思う。一時託児を行うにあたっては、ニーズ把握が必要になるだろう。コンソーシアムにおける自治体の連携については、中小企業のマッチングやリカレント教育、リスクリングなど、ジェンダー平等だけでなく、大学や高専と企業をつなぐ部分を視野に入れて地域のエンパワーメントを進める提案をすると、より興味を持ってもらえるのではないかと。



<令和5年度>

「令和5年度ダイバーシティ外部評価委員会」の開催

令和5年度外部評価委員（敬称略）

氏 名	所 属 等	推薦機関
上田 悦子	鹿児島工業高等専門学校 校長	長岡技術科学大学
五味 由紀子	株式会社 GFN 代表取締役	長岡工業高等専門学校
山田 康博	税理士法人ながおか会計 所長 (一社) 地域ルネッサンス創造機構 シンクタンク・ザ・リバーバンク 理事	株式会社イートラスト
伊藤 公雄	京都産業大学 教授 ダイバーシティ推進室長	長岡技術科学大学

日 時 令和6年3月21日（木）11：00 ～ 12：00

会 場 Zoom によるオンライン会議

参加者 ・ 外部評価委員 4 名
 ・ ダイバーシティ連携推進会議 4 名
 ・ 各機関担当者（長岡技科大、長岡高専、株式会社イートラスト）8 名（計 16 名）

日 程 (1) 開会挨拶 長岡技術科学大学 鎌土 重晴 学長
 (2) 代表機関報告
 (3) 共同実施機関事業進捗報告
 (4) 質疑応答 15 分
 (5) 講評 20 分
 (6) 評価を受けて
 (7) 閉会挨拶 長岡工業高等専門学校 小林 幸夫 校長

● 講 評

◎五味委員から

長岡技科大における学内一時託児はすそ野拡大啓発にもつながり、大変良い取り組みであると感じた。現在、労働力確保が問題となっているため、ダイバーシティ推進は、地域の産業や経済にとっても大変重要な取組である。ぜひ、コンソーシアムの門戸を広げ、従業員が少ない企業も参画しやすいように取組を進めてほしい。

◎山田委員から

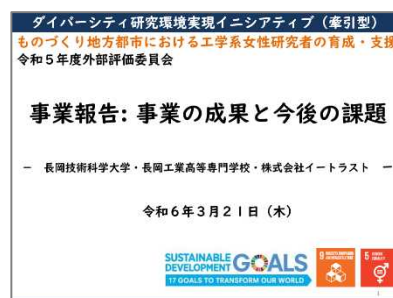
取組に広がりが見られる点は評価できる。属人化や管理職の意識改革は製造業に限らずどの領域でも課題となっていると思うが、組織として進めていかないと、個人の頑張りだけではどうなるものでもない。コンソーシアムで行う課題解決の取組については、自治体の取組との差別化を図る意味でも、本事業の連携3機関がモデル的な役割を果たしながら取り組んでいただけるとよいと感じた。

◎伊藤委員から

女性限定公募をして待つだけでなく、女性研究者への声かけやリクルーティングが必要。また、今後、コンソーシアムを持続していくためには、ダイバーシティを推進、実践した成果を見せることが大切だと思う。自治体への提言に加え、これからは、理工系分野にジェンダーの視点を取り入れることが重要になってくるので、ジェンダードイノベーションの観点からも自治体に貢献できるようになると良い。

◎上田委員から

大学、高専、企業が連携して取り組んでいる点が特徴的なので、各機関のジェンダー認識の差を明らかにし、それぞれの課題解決につなげられると良い。また、ものづくりや工学系分野では、リカレント教育が重要である。特に、地方では一度、他県に出てから戻ってくる人も多い。コンソーシアムで、学び直し、育て直しができる体制を整えることができれば、地元の技術者育成やキャリアアップにつながれると思う。



2－3 大学院生向け授業（1学期開講、2単位）

「ダイバーシティから考える社会人力形成論」

長岡技術科学大学では、令和2年度から男女共同参画やダイバーシティについて理解を深める授業を開講し、大学院生への意識啓発を行っている。

目 的

自らの強みを活かし、多様な個性や特性を持った人々と良い人間関係を築きながら、キャリアプランを中心に充実した将来ビジョンを描くことができるようにすることを本講義の目的とする。今日の課題となっている無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)への気づきを通して、SDGsとも深く関連する国籍・人種等に関わる多様性(ダイバーシティ)や性差(ジェンダー)平等などに関わる課題を理解し、多様な人々と協働できる社会人力を磨き、ワーク・ライフ・バランスの意義についても十分な理解を得る。

※人に関するダイバーシティは、本来、障がい、年齢など様々な属性や特性に関わるものであるが、本授業では、時間の制約上、ジェンダーと国籍を中心に扱う。

授業内容及び授業形式

講義とワークショップ、ゲスト講義

<令和4年度>

日 時

令和4年4月13日（水）～令和4年7月27日（水）

毎週水曜日1限（8：50～10：20）

会場・方法

Zoomによるオンライン授業

担当教員

- ・山本 麻希（男女共同参画推進室長、准教授）
- ・西原 亜矢子（男女共同参画推進室、UEA/特任講師）
- ・南口 誠（男女共同参画推進室室員、教授）

履修者数

大学院修士課程 91 名

授業内容

1	4/13	講義：オリエンテーション、ダイバーシティとは
2	4/20	講義：男女共同参画に必要な性差（ジェンダー）平等・無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）について
3	4/27	ゲスト講義：セクシャル・マイノリティー
4	5/11	ゲスト講義：国籍のダイバーシティ・外国人が日本で働くということ
5	5/18	ゲスト講義：ハラスメント、リスクマネジメント
6	5/25	ワークショップ：ダイバーシティとアンコンシャス・バイアスへの気づき
7	6/ 1	ゲスト講義：働き方改革（ワーク・ライフ・バランス）について①
8	6/ 8	ゲスト講義：働き方改革（ワーク・ライフ・バランス）について②
9	6/15	ゲスト講義：キャリア形成について①
10	6/22	ゲスト講義：キャリア形成について②
11	6/29	ゲスト講義：様々な立場で働いている人のキャリア形成事例 ※県内企業社員(協力機関)と大学院生との交流会
12	7/ 6	ワークショップ：キャリア形成について考える。
13	7/13	自らの研究活動を語り、聴きあう
14	7/20	講義：レジリエンス
15	7/27	講義：授業総括ワークショップ

<令和5年度>

日 時

令和5年4月12日（水）～令和5年7月26日（水）
毎週水曜日1限（8：50～10：20）

会場・方法

対面授業（講義棟1階B講義室）及び遠隔授業の併用（AL2講義室）、一部Zoomを用いたオンライン

担当教員

- ・山本 麻希（男女共同参画推進室長、准教授）
- ・南口 誠（男女共同参画推進室室員、教授）

履修者数

大学院修士課程 189 名

授業内容

1	4/12	講義：オリエンテーション、ダイバーシティとは
2	4/19	ゲスト講義：ハラスメント・リスクマネジメント
3	4/26	ゲスト講義：セクシャル・マイノリティー※
4	5/10	ゲスト講義：国籍のダイバーシティ・外国人が日本で働くということ
5	5/17	講義：男女共同参画に必要な性差（ジェンダー）平等・無意識の偏見（アンコンシャス・バイアス）について
6	5/24	ワークショップ：ダイバーシティとアンコンシャス・バイアスへの気づき
7	5/31	ゲスト講義：働き方改革（ワーク・ライフ・バランス）について①
8	6/ 7	ゲスト講義：働き方改革（ワーク・ライフ・バランス）について②
9	6/14	ゲスト講義：キャリア形成について①
10	6/21	ゲスト講義：キャリア形成について②
11	6/28	ゲスト講義：様々な立場で働いている人のキャリア形成事例 ※県内企業社員(協力機関)と大学院生との交流会
12	7/ 5	ワークショップ：キャリア形成について考える。
13	7/12	自らの研究活動を語り、聴きあう
14	7/19	講義：レジリエンス
15	7/26	講義：授業総括ワークショップ

※第3回「セクシュアル・マイノリティー」を公開授業（オンライン）として教職員に公開した。LGBT 等性的マイノリティについての基本的知識や、教育や研究活動・課外活動を行う上での留意点への理解を深めた。

2-4 「オレンジ・デー」啓発の取組

「オレンジ・デー」（女兒・女性への暴力撤廃活動）啓発のため市内3大学1高専が連携し取組を実施した。

国連では、女性に対する暴力に反対する国際デーである11月25日から12月10日を「女兒・女性に対する暴力撤廃活動」のキャンペーン期間「オレンジ・デー」と定めている。長岡技科大は長岡市内の長岡造形大学、長岡崇徳大学、長岡工業高等専門学校とともに「オレンジ・デー」の趣旨に賛同し、学内外での意識啓発活動に取り組んだ。

この取組は、暴力のない明るい未来を象徴するオレンジ色のものを身に付けることにより意識啓発を促すもので、期間中、賛同する教職員や学生たちがオレンジ色のペンやネクタイ、スカーフなどを身に付け、女性への暴力撤廃を呼びかけた。長岡技科大では、着用できるオレンジ色のものが少ないとの声を受け、SDGsプロモーターの学生たちと一緒に「SDGsゴール5：ジェンダー平等」を掲げ、オレンジ色の缶バッジの配布を行うなど、全学一体となって啓発活動に取り組んだ。

日 時 令和5年11月25日（土）～12月10日（日）

対 象 「オレンジ・デー」に賛同する教職員及び学生

方 法 オレンジ色のものを身に付ける

主 催 長岡技術科学大学

共同実施機関

長岡造形大学、長岡崇徳大学、長岡工業高等専門学校



3 研究・キャリア支援

3-1 女性のための管理職セミナー

女性教職員のキャリアアップに関する意識啓発を目的として実施した。終了後には、研究者・技術者を含め、女性教職員・社員が交流する機会として交流会を開催した。

<令和4年度>

「女性研究者のための管理職セミナー／女性研究者・技術者交流会」

日 時 令和5年2月27日(月)16:00～17:30

会 場 NaDeC BASE

講 師 佐々木 順子 氏
(公立大学法人長岡造形大学理事長)

対 象 連携・協力機関に所属する女性研究者・技術者
及び、関心のある教職員(性別不問)、
大学院生・学部生

主 催 長岡技術科学大学

共 催 長岡工業高等専門学校、(株)イートラスト、
えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソー
シアム準備委員会

内 容 令和4年12月21日(水)に開催予定だったが、大雪による交通障害のため延期となった。長岡造形大学理事長の佐々木順子氏をお迎えし、企業での管理職経験と大学理事の立場からご自身のキャリアアップ体験談を語っていただいた。講演後には、参加者同士で女性研究者や技術者が抱えるキャリアアップへの不安や疑問を語り合う場としてキャリアアップ交流会も行い、女性研究者・技術者同士で交流できる貴重な機会となった。

参加者 12名

The poster is for a seminar titled "女性研究者のための管理職セミナー 女性研究者・技術者交流会" (Management Career Development Seminar for Women Researchers and Technicians Exchange Meeting). It features a photo of the speaker, Ms. Yukiko Sasaki, and details about the event. The text on the poster includes the date and time (February 27, 2023, 16:00-17:30), the venue (NaDeC BASE), and the target audience (women researchers and technicians in affiliated organizations, as well as interested faculty, students, and staff). It also lists the topics of the seminar and the names of the organizers and sponsors.

SDGsが目標。誰一人取り残さない多様性と包摂性のある社会の実現に向けて

文部科学省技術・人材育成補助事業「ダイバーシティ・研究環境実現イニシアティブ(第1期)」
長岡技術科学大学・長岡工業高等専門学校・株式会社イートラスト

**女性研究者のための管理職セミナー
女性研究者・技術者交流会**

長岡造形大学理事長の佐々木順子氏をお迎えし、企業での管理職経験と大学理事の立場からご自身のキャリアアップ体験談を語っていただきます。
講演後には、参加者同士で女性研究者や技術者が抱えるキャリアアップへの不安や疑問を語り合う場としてキャリアアップ交流会も行います。女性研究者・技術者同士で交流できる貴重な機会となりますので、ぜひご参加をお待ちしています。

令和4年12月21日(水)に開催予定でしたが、大雪による交通障害のため延期となりました。下記のとおり開催することとなりました。

日 時: 令和5年2月27日(月)16:00～17:30
会 場: NaDeC BASE (長岡市大学通2丁目2-6 ながの市民センター 1F)
対 象: 連携・協力機関に所属する女性研究者・技術者及び、
関心のある教職員(性別不問)、大学院生・学部生
講 師: 佐々木 順子 氏 (公立大学法人長岡造形大学理事長)

＜プログラム＞
1. 「女性が管理職に就くということ」
～企業と大学での経験を通じて～(150分)
講師: 佐々木 順子 氏
2. 「キャリアアップ交流会」(30分)

講師: 佐々木 順子 氏
長岡造形大学理事長。東京理科大学経済学部教授。日本経済新聞「女性リーダー」に連載している。大学でのキャリアアップ体験談を語っていただく。2011年に長岡技術科学大学に異動。2015年に長岡工業高等専門学校に異動。2017年に長岡造形大学に異動。2022年4月、公立大学法人長岡造形大学の理事長に就任。

お申し込み・お問合わせ
2/20(月)正午までに右記申込用コードもしくはE-MAILにて、お名前、所属機関、連絡先を
お知らせください。
長岡技術科学大学 ダイバーシティ・研究環境実現部門
TEL: 0258-4719911 E-MAIL: dcm@ipc.nagaokaut.ac.jp
HP: <https://diversity.nagaokaut.ac.jp/>

主催: 長岡技術科学大学
共催: 長岡工業高等専門学校、株式会社イートラスト
えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会

<令和5年度>

「女性のための管理職セミナー／交流会」

日 時 令和6年2月20日(火) 15:00～17:00

会 場 長岡技術科学大学 第一会議室

講 師 佐々木 順子 氏
(公立大学法人長岡造形大学理事長)

対 象 連携機関・協力機関に所属する女性教職員・社員及び、関心のある教職員(性別不問)

主 催 長岡技術科学大学

共 催 長岡工業高等専門学校、(株)イトラスト、
えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会

内 容 長岡造形大学理事長の佐々木順子氏をお迎えし、企業での管理職経験と大学理事の立場からご自身のキャリアアップ体験談を語っていただいた。終了後には、女性研究者・技術者の交流を目的とする交流会を実施し、学内外の女性教職員・社員が交流できる貴重な機会となった。

参加者 33名

SDGsが掲げる、誰一人取り残さない多様性と包摂性のある社会の実現に向けて
文部科学省科学技術振興政策推進機構「ダイバーシティ研究推進連携イニシアティブ(単引型)」
長岡技術科学大学・長岡工業高等専門学校・株式会社イトラスト

女性のための管理職セミナー

長岡造形大学理事長の佐々木順子氏をお迎えし、企業での管理職経験と大学理事の立場からご自身のキャリアアップ体験談を語っていただきます。
学内外の女性教職員・社員が交流できる貴重な機会となりますので、ぜひご参加をお待ちしています。

日 時: 令和6年2月20日(火)15:00～17:00
会 場: 長岡技術科学大学 第一会議室 (事務局1号棟3階)
対 象: 連携機関・協力機関に所属する女性教職員・社員及び、関心のある教職員(性別不問)
講 師: 佐々木 順子 氏
(公立大学法人長岡造形大学理事長)
テーマ: 「女性が管理職に就くということ
～企業と大学での経験を通じて～」

お申し込み・お問合先
2/13(水)正午までに右記申込QRコードもしくはE-MAILにて、お名前、所属機関、連絡先を
申込の上、お申し込みください。
長岡技術科学大学 ダイバーシティ・研究推進連携型
TEL: 0258-47-9911 E-MAIL: danjo@com.nasokaut.ac.jp
HP: https://diversity.nasokaut.ac.jp/

主催: 長岡技術科学大学
共催: 長岡工業高等専門学校、株式会社イトラスト
えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会



3-2 「女性躍進賞」「女性新進賞」表彰制度

～第1回「女性躍進賞」の実施～

令和2年度、女性研究者の研究意欲を高め、もっと将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図り連携機関におけるダイバーシティの推進に資することを目的に「優れた女性研究者賞」を創設。令和4年度、「優れた女性研究者賞検討委員会」を立ち上げ、表彰制度の見直しを行った。令和5年度から「女性躍進賞」「女性新進賞」に改め、企業からの応募も視野に入れ対象を技術者に拡大した。

賞の概要

女性研究者・技術者を顕彰することにより、一層の活躍を願うと共に、女子学生や若手研究者・技術者にとってのロールモデルとなり、工学をはじめ自然科学系分野へ進む後進を励まし、増やすことを目的とする。対象者は、連携機関に所属する准教授相当以下の女性研究者・技術者（准教授・講師・助教およびこれらに相当する技術者とする。教授は含まない。）のうち、女性躍進賞は5年以上、女性新進賞は3年以上在籍する者で、優れた業績を挙げ、技術開発の発展、向上に貢献したと認められる者とする。

第1回「女性躍進賞」「女性新進賞」

◎女性躍進賞

受賞者：環境社会基盤系 松田 曜子 准教授

推薦者：細山田 得三 系長

◎女性新進賞

受賞者なし

<表彰式>

日時 令和5年12月13日（水）

会場 長岡技術科学大学 AL1 講義室



3-3 女性研究者のすそ野拡大啓発活動

「ロールモデル講演会」の開催

<令和4年度>

「OGのキャリアストーリー2人の技術者が語る進路選択とキャリア」

日 時 令和5年2月22日(水) 16:10 ~ 17:40

会 場 Zoomによるオンライン配信

講 師 佐藤 牧子 氏

(ナミックス株式会社 技術開発本部 第一商品開発 G)

小此鬼 瑞季 氏 (アマゾン・データサービシズジャパン合同会社

データセンターエンジニアリングオペレーションズ)

対 象 学部、大学院及び高専の女子学生

(※男子学生の参加も可)

主 催 長岡技術科学大学

共 催 長岡工業高等専門学校

参加者 12名

<令和5年度>

「私が溶接女子になるまでにしてきた10くらいのこと」

日 時 令和5年12月13日(水) 13:30 ~ 15:00

会 場 長岡技術科学大学 AL1 講義室

(後日、録画視聴可)

講 師 梅田 純子 氏 (大阪大学 接合科学研究所 教授)

対 象 学部、大学院及び高専の女子学生、及び女性教職員

主 催 長岡技術科学大学

共 催 長岡工業高等専門学校

参加者 33名

「ロールモデル集」の作成と公開

女性技術者・研究者の拡充のため、女子学生が技術者・研究者への進路選択を拡大・向上するための取り組みとして、長岡技術科学大学の教職員及び卒業生の協力を得て、ロールモデル集を作成した。若い世代がより身近に感じられるよう、PDF化しWebページ上で公開している。また、チラシを作成し、高専交流集会などで配布した。

令和4年度は2名、令和5年度は1名の本学教職員及び卒業・修了生にご協力いただき、合わせて21名分を掲載している。



「高専教員体験会」の開催

高専は5年間の一貫教育の中で、専門性の高い技術者や研究者を育成する高等教育機関であり、低年齢の学生を対象とした早期技術者教育から専攻科学生を対象とした高度専門技術者教育まで、幅広い年齢層に対する専門分野の教育を提供しており、理系の次世代女性研究者育成に寄与しう点で特長である。

そこで、女性研究者の採用・上位職登用を実現するために、代表機関および協力機関に所属する女性研究者及び候補者に対する研究及び教育の場を提供することを目的に、高専教員体験会（専攻科特別研究発表会聴講および学校見学会）を実施する。本企画を通して、専門性が高く経験豊富な女性の技術開発研究者及び研究者、その候補者の育成支援を行う。



<令和4年度>

日時・会場

- ①1日目：令和5年1月26日（木）9時30分～17時00分
- ②2日目：令和5年2月9日（木）10時00分～16時30分

アオーレ長岡
長岡工業高等専門学校

<令和5年度>

日時・会場

- ②1日目：令和6年1月11日（木）10時00分～16時30分
- ①2日目：令和6年1月25日（木）9時30分～17時00分

長岡工業高等専門学校
アオーレ長岡

「女子対象 高校生・高専生と技大生の交流会」の開催

令和4年度、長岡技術科学大学オープンキャンパスにおいて、女子高校生・高専生と技大生との交流会を開催し、19名の参加があった。女性教員から、長岡技科大における女子学生の状況の説明がされた後、技大生3名が参加者からの質問に応答し、「入学試験の準備」「研究室への配属」から「大雪対策」「長岡ラーメン」にいたるまで、多岐にわたる話題で終始、和やかな会となった。

日 時 令和4年8月6日(土) 14:00 ~ 15:00

会 場 長岡技術科学大学 AL2 講義室

参加者 19名



女子学生ネットワーク「長岡技術科学大学フィーカ（Fika）」の設立

令和5年度3月、長岡技術科学大学の女子学部生・女子大学院生だけで組織される団体「長岡技術科学大学フィーカ（Fika）」が設立された。フィーカ（Fika）とは、スウェーデン語で「お茶の時間」の意味。今後、女子学生同士が学年や専攻・分野を超えてゆるくつながり、交流できる居場所となるよう、令和6年度4月以降に活動を活発化していく予定。



すそ野拡大啓発ワーキング・グループの活動

令和4年度から長岡技術科学大学に「すそ野拡大ワーキング・グループ」を設置し、女性の技術者・研究者を増やすため、小・中学生から高等専門学生及びその保護者、学校関係者等幅広い層を対象に、工学分野に対する興味・関心を引き付ける啓発事業の企画、立案を行っている。

①長岡技術科学大学教職員と学生によるプロジェクト団体「TE×DI」の活動

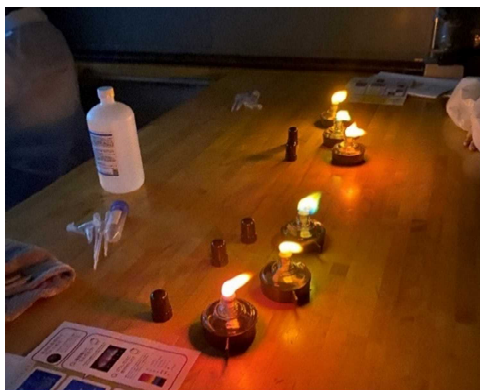
令和4年度からすそ野拡大のための教職員と学生によるプロジェクト団体『TE×DI』を結成し、実験・ものづくりを通して技術の楽しさ・面白さ・感動を届ける活動として、全国各地の高専等と連携しながら実験・講座を開いている。

<令和4年度>

日付	連携先等	内 容
5/21	熊本高専	おもしろサイエンスわくわく実験講座：ペーパークロマトグラフィーで Kawaii インテリアを作ろう
8/6	長岡技科大オープンキャンパス	「マイクロプラスチックでアクセサリを作ろう」
8/7	まちなかキャンパス	「分解しまくり隊」
8/9	長岡高専	「電子部品でキーホルダーを作ってみよう」
8/26	福島高専	「電子部品でキーホルダーを作ってみよう」
11/5	北九州高専「Nit♡Kit ガールズ」	「カラフルランプ炎色反応」
11/26	福島高専	「電子部品でキーホルダーを作ってみよう」
12/12	東京高専	SDGs 講演会にて「TE×DI 紹介」
1/23	長岡高専	「LED を使ったテクノ手芸を体験してみよう」
3/4	熊本高専	「電卓を分解して自分だけのアクセサリを作ろう」
3/25	神戸高専	「海のゴミ マイクロプラスチックでわたしだけのキーホルダーを作ろう！」

<令和5年度>

日付	連携先等	内 容
5/20	熊本高専	「おもしろサイエンスわくわく実験講座：海のゴミマイクロプラスチックで私だけのアクセサリーを作ろう」
8/5	長岡技術科学大学 オープンキャンパス	「カラフルなアクセサリーを作ろう！」
8/19- 20	北九州高専「Nit ♡Kit ガールズ」	「カガクでカラフルインテリアづくり」
9/2	長岡高専	「テクノ手芸を体験しよう」
10/28- 29	仙台高専	「マイクロプラスチックでかわいいアクセサリーを作ろう！」
11/4	福島高専	「電卓を分解してアクセサリーを作ってみよう」
1/20	ベトナム ホーチ ミン市工科大学	「書道とペーパークロマトグラフィーによるしおりづくり、マイクロプラスチックを用いたアクセサリー作り」
3/2	熊本高専	「電卓を分解して自分だけのアクセサリーを作ろう」
3/24	神戸高専	「海のゴミ マイクロプラスチックでわたしだけのキーホルダーを作ろう！」



②女子中高生対象プログラミング体験講座「Waffle Camp」

令和5年度、IT分野のジェンダーギャップの解消に向け、ITスキルの提供とIT分野のキャリア支援を目的に、長岡市内の女子中高生を対象とする新潟県内初のプログラミング講座を開催した。次代を担う女子中高生が理工系分野に興味・関心を持ち、将来の自分をしっかりイメージして進路選択をできるようにすることを目指し、NPO法人Waffleを講師に招きHP制作を学ぶ講座のほか、女性ITエンジニア等によるキャリアトークを実施した。

日 時 令和5年11月23日（祝）10：00～16：00

会 場 対面とオンライン配信のハイブリッド形式

講 師 NPO 法人 WaffleCamp

対 象 長岡市内に在住・在学する女子中学生
※性自認が女性、ノンバイナリーの方

主 催 長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校、
長岡市による共同主催

参加者 9名



③地元学習塾とのコラボセミナー

「文理選択で迷っている女子中高生に届ける！
公開セミナー」

令和5年度、地元学習塾と連携して小中学、高校生の女子と保護者を対象に文理選択セミナーを開催した。女子は理数系の科目が苦手、工学系は大変といったアンコンシャス・バイアスや工学系へのネガティブなイメージを払拭し、工学系分野へのすそ野拡大啓発を行った。

日 時 令和6年1月21日(土)9:20～11:00

会 場 アオーレ長岡 ホールA

対 象 新潟県内の小中高校生女子とその保護者(※保護者のみ、男子の参加も可)

共 催 佐藤塾

参加者 30名



④啓発冊子「女子中高生のための工学系進学ガイド ～未来と社会を変える力を手に入れよう～」

令和5年度、主に女子中高校生とその保護者を対象に、工学系分野には具体的にどのような分野があるのかを伝え、工学系分野を選択するとどのようなメリットがあるのか、その先のキャリアイメージが持てるよう、すそ野啓発パンフレットを作成した。

対 象 主に女子中高校生とその保護者

規 格 A4・8ページ

部 数 1,000部

発行日 令和6年3月



4 ライフイベント支援

4-1 ライフイベント時の研究支援者制度

「育児や介護等をかかえる研究者に対する研究支援者の配置」

1. 制度の目的

連携機関に所属する研究者が、妊娠、出産、育児、介護、看護が必要な時期にある場合、研究時間の確保と研究活動を図るため、研究支援者の配置を支援する。

2. 支援対象者

次に掲げるいずれかの理由で研究活動に支障が生じている研究者

- (1)本人または配偶者が妊娠中
- (2)小学校6年生までの子を養育中
- (3)市町村から要介護の認定を受けている親族（同居・別居は問わない）を介護
- (4)障がい者を介護
- (5)その他、上記理由に準ずる場合

3. 支援期間

- (1)4月1日から翌年3月31日までの1年間の範囲内
- (2)支援期間中に研究支援者を必要とする理由がなくなった場合は支援終了

4. 利用者状況

	R 4 利用者数	R 5 利用者数
長岡技術科学大学	5 名	2 名
長岡工業高等専門学校	4 名	3 名
合 計	9 名	5 名

5. その他

長岡技科大では令和4年度に学内制度の改正を行い、対象となるライフイベントに「本人の傷病」が追加された。

4-2 夜間、休日、病児・病後児、学童保育の利用料補助制度

1. 制度の目的

長岡技術科学大学及び長岡工業高等専門学校に所属する研究者（男性研究者を含む）に対し、研究と育児を両立させ、円滑な研究・教育活動の継続とキャリア形成を目指して、夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育等の各種保育施設等による保育サービスを利用した場合に、その保育料の一部を補助する。

2. 支援対象者

本人及び配偶者が、研究や就業若しくは家族の介護等の事由により、保育すべき子を家庭で保育することができない男女研究者。ここで子は、12歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある子をいう。

3. 事業内容

事前登録を行った研究者が、保育すべき子を夜間保育、休日保育、病児・病後児保育、学童保育等で各種保育施設やファミリー・サポート・センター事業、ベビーシッター等を利用した際に、支払った費用の一部を利用料補助として支援する。

4. 個人情報の取扱い

本制度の利用申請及び利用料補助請求により各機関が取得した個人情報は、本制度実施の業務にのみ使用する。

5. 利用対象施設及びサービス

- (1)全国病児保育協議会に加盟している保育施設
- (2)市区町村が実施する、病児又は病後児に係る保育事業において指定された保育施設
- (3)市区町村が小学校区に配置する児童クラブ及び民間学童保育施設
- (4)市区町村が実施する、ファミリー・サポート・センター事業の提供会員宅での保育、民間ベビーシッターによる利用者宅等での保育
- (5)前(1)～(4)に示す保育施設、保育サービス以外で、各機関が認める保育施設や保育サービス

6. 実施・運用

実施及び運用（一人の子に対する利用料補助額の上限を含む）については、各機関の予算及び実情に応じて各機関が別に定めるので、各機関に問い合わせる。

7. 利用者状況

	R 4 利用者数	R 5 利用者数
長岡技術科学大学	5 名	6 名

8. その他

長岡技科大では令和4年度に学内制度を改正し、対象を職員・技術職員に拡大した。

4-3 ライフイベントによる研究中断からの復帰支援研究助成制度

1. 制度の目的

令和元年度に制定したライフイベントによる研究中断からの復帰支援制度（以下「復帰支援制度」という）は、連携機関に所属する研究者（男性研究者を含む）が、出産・育児・介護及び看護等のライフイベントにより、3ヶ月以上の研究中断後に復帰した場合に、円滑な研究の再開と継続的なキャリア形成を図ることを目的として研究費の助成を行うものである。

2. 支援対象者

- ・申請年度の4月1日から遡って過去3年以内にライフイベントにより、3ヶ月以上研究活動を中断した研究者
- ・その他、各機関の長が認める研究者

3. 審査・決定

提出された申請書に基づき、所属機関において審査し、助成の可否及び助成金額を決定し、申請者に通知する。

4. 利用者状況

	R 4 利用者数	R 5 利用者数
長岡工業高等専門学校	1 名	1 名

4-4 ワーク・ライフ・バランス相談室

連携機関に所属する女性研究者をはじめ全ての教職員が、仕事と生活を両立させながら、能力を発揮できる環境を整える一環として、令和元年度から「ワーク・ライフ・バランス相談室」を設置している。

1. 主な相談内容

- (1) 出産、育児、介護等のライフイベントに直面した際の研究・仕事との両立
- (2) ワーク・ライフ・バランス（WLB）に関する悩み
- (3) 相談者の許可を得た上で学内外の専門機関・組織の紹介

2. 相談員

ダイバーシティ研究環境推進部門 白井一美（プロフィール：産業カウンセラー、キャリアコンサルタント、（公財）日本女性学習財団キャリア支援デザイナー）

3. 主とする対象者

連携機関の研究者（研究員・大学院博士後期課程の学生含む）、教職員

4. 相談日 毎週火曜日 10:00～16:00

5. 相談予約 電話か Email で予約

Tel：0258-47-9911（長岡技術科学大学内線 9911、2170）

Email：wlb_soudan@vos.nagaokaut.ac.jp

6. 相談

- (1) 相談時間は原則 45 分程度
- (2) 制度の改正、施設の改善、ダイバーシティ研究環境実現事業への反映が必要な事項等については相談者の了解、個人情報管理の徹底を前提に部門長と協議し対応する。

7. 個人情報の取扱い

受付から相談終了後も個人情報管理を徹底する。書類は鍵のかかる書庫に、エクセルやワード等電子媒体はすべてパスワード管理とする。

8. 相談実績

R 4 相談件数	R 5 相談件数	合計
9 件	10 件	19 件

4-5 ワーク・ライフ・バランス懇談会

長岡技科大及び長岡高専では、職場環境向上のための取り組みとして、教職員が学長、校長と「ワーク・ライフ・バランス」をテーマに懇談会を行っている。教職員の年齢や性別等を問わず、学長、校長を交えて意見交換を行うことでトップが職場における教職員の生の声を聴く場とするとともに、「ワーク・ライフ・バランス」の意識啓発の機会とする。

実施回数及び参加人数

<令和4年度>

機関	開催日	系・部署	参加人数
長岡技術 科学大学	8/10	環境社会基盤系	21 名
	8/19	機械系	28 名
	8/26	技術支援センター	34 名
	10/11	電気電子情報系	24 名
	10/12	物質生物系	30 名
	10/13	情報・経営システム系	12 名
	10/14	システム安全系	15 名
	11/15	基盤共通教育系	19 名
	11/28	量子原子力系	14 名
	12/9	事務局	14 名
長岡工業 高等専門学校	12/7、8	教員、事務部、教育研究技術 支援センター	25 名

<令和5年度>

機関	開催日	系・部署	参加人数
長岡技術 科学大学	2/29	新任教職員(令和4～5年度 採用)	42 名
長岡工業 高等専門学校	12/11、14	教員、事務部、教育研究技術 支援センター	15 名

4-6 学内一時託児の試行

長岡技術科学大学は、令和5年8月に教職員の子(小学生)を対象に「学内一時託児」を試行的に実施した。常勤・非常勤などの雇用形態にとらわれず、広く教職員の子どもたちを受け入れ、延べ48名の児童を預かった。教員によるアトラクションを行うほか、学生が有償ボランティアとして積極的、主体的に協力し、児童の夏休みの宿題のサポートや、自由研究のアイデアを共有するなどしながら充実した時間を過ごした。

期 間 令和5年8月7日(月)～10日(木) (4日間)

利用人数 延べ48名



4-7 男性の育児休業取得促進

連携機関では、発行しているニューズレターに育休を取得した男性教職員による「パパの育児体験記」を掲載するなど、積極的に男性の育児休業取得を促進している。

パパの育児体験記

長岡技術科学大学 職員 Zさん (仮名)

私が育児休業の取得を考えたのは、出産後の妻に育児や家事が大きく負担になるだろうと思い、少しでも負担を軽減したかったからです。家族としてどのように生活するかを夫婦で話し合い、私も育児取得を申請することになりました。

育児休業の取得について当時の上司に相談したところ、上司のご子息も育児休業を取得しているとのこと、快く了承してくれました。また上司は、私の仕事の穴埋めのために担当部署にかけあい、私の希望に沿って、半年間育児休業で抜けても問題ない体制を整えてくれました。

育児休業中入ると、最初の数週間は、赤ちゃん返りした娘と赤ちゃんの息子の要求に追われる日々でした。ただ、辛いと思うことは少なく、おむつ交換やお風呂の時間など、二人の子供の世話を手を抜きながら、笑顔の時間を共有しました。

育児休業期間の終わりには、妻と娘に、もっと長い期間一緒にいたいと思ってもらえるほど、家族の絆が一層深まったことを感じました。

育児休業が終わったこれからも、この体験を忘れずに家族との時間を大切にしながら、子供の成長を見守りたいと思います。

連携機関における男性の育児休業取得状況

	R 4 取得者数	R 5 取得者数
長岡技術科学大学	3 名	7 名
長岡工業高等専門学校	0 名	3 名
株式会社イトラスト	2 名	3 名

4-8 介護準備セミナー

将来、高齢の親の介護を担う可能性がある連携・協力機関の教職員を対象に、仕事と介護とを両立させるためには、どのような準備をしておくといいか、在宅介護や支援体制についての基礎知識も含めて学ぶ機会としてセミナーを開催した。

日 時 令和5年3月17日（金）13:00～14:10

会 場 オンライン（Zoom）

講 師 「仕事と介護との両立に向けて、準備しておくこと」
大井 秀行 氏（公益社団法人新潟県介護福祉協会 会長）
「テクノロジーを活用した遠隔介護の経験談」
木村 悟隆 氏（長岡技術科学大学 物質生物系 准教授）

対 象 連携・協力機関に所属する教職員

主 催 長岡技術科学大学

共 催 長岡工業高等専門学校、(株)イートラスト、えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会

内 容

- ・介護に関わる施設、専門職
- ・要介護状態が進むプロセス
- ・介護休業・休暇は、どのような時期に取得するとよいか
- ・親と話し合っておくとよいこと、聞いておくべきこと
- ・家族は介護で何を行うのか、介護職者は何を行うのか
- ・介護保険サービスを利用するには
- ・ケアマネージャーとは、つきあい方
- ・介護にかかる費用 など

参加者 29名

主催：長岡技術科学大学
共催：長岡工業高等専門学校、(株)イートラスト、えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会

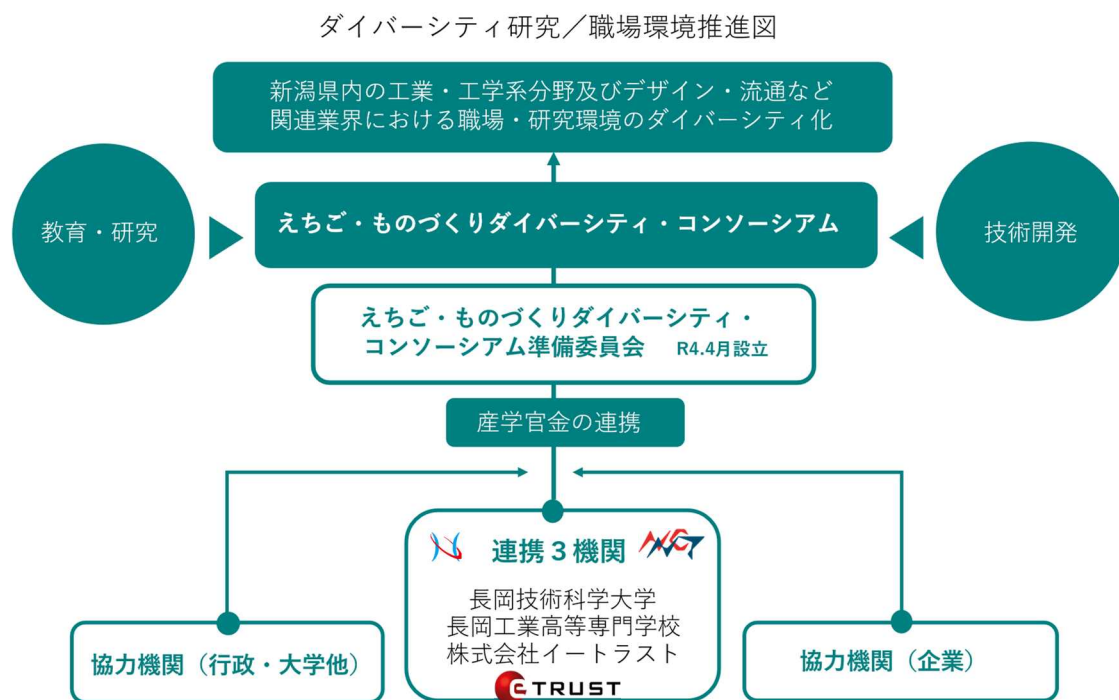
【お問い合わせ先】
長岡技術科学大学
ダイバーシティ・研究推進部
dcs@ipc.nitech.ac.jp

5 地域・企業連携

5-1 えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会の活動

1. えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会とは

新潟県内の工業・工学系及びデザイン・流通など関連業界において、多様な属性や生活背景をもつ構成員が個々の能力を発揮し活き活きと働けるダイバーシティ職場・研究環境を波及するとともに、人材育成を図ることにより、労働力を確保し、産業を活性化させることをミッションとする「えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム」の構築に向けて、令和4年度4月、「えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会」（以下、コンソーシアム準備委員会）が始動した。



■準備委員会参画機関（R6.3.31 現在）

<会員>

長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校、株式会社イトラスト、たかの社会保険労務士事務所、株式会社トップライズ、長岡造形大学、株式会社サカタ製作所

<オブザーバー>

長岡市、株式会社日本政策金融公庫長岡支店、新潟工科大学、株式会社大光銀行、ソリマチ株式会社、株式会社ブルボン、ヨネックス株式会社新潟工場、北越コーポレーション株式会社研究所

3. 活動内容

①コンソーシアム準備委員会 運営委員会の開催

連携機関である長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校、株式会社イートラスト及び、たかの社会保険労務士事務所、株式会社トップライズが運営委員会となり、課題解決に向けた勉強会や、成功事例等の情報共有などの事業の企画・運営を行っている。令和4年度は計10回、令和5年度は計9回の定例会を実施した。

■運営委員会参画機関（R6.3.31 現在）

長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校、株式会社イートラスト、
たかの社会保険労務士事務所、株式会社トップライズ

②ダイバーシティ授業における企業と学生との交流会

長岡技術科学大学の大学院生対象授業「ダイバーシティから考える社会人形成論」において、コンソーシアム準備委員会の会員企業がダイバーシティ推進の取組紹介を行った。後半は、たかの社会保険労務士事務所の高野真規氏をコーディネーターにパネルディスカッションを行い、学生と企業との交流を図った。

<令和4年度>

日 時 令和4年6月29日（水）8：50 ～ 10：20

会 場 オンライン（Zoom）

企 業 株式会社イートラスト、株式会社サカタ製作所

参加者 91名

<令和5年度>

日 時 令和5年6月28日（水）8：50 ～ 10：20

会 場 オンライン（Zoom）

企 業 株式会社イートラスト、株式会社サカタ製作所、株式会社トップライズ

参加者 189名

③長岡市主催「Matching HUB Nagaoka」への出展

令和4、5年度と、アオーレ長岡で開催された長岡市主催の産学官金連携イベント「Matching HUB Nagaoka」にコンソーシアム準備委員会としてブース出展し、会員企業のダイバーシティ推進事例紹介や、準備委員会のPR、周知活動を行った。



④コンソーシアム勉強会の開催

令和5年度、コンソーシアム準備委員会の会員機関、オブザーバー及び協力機関を対象に、よりダイバーシティな職場環境を推進することを目的に、課題解決のための先進事例などを学ぶ勉強会を開催した。

日 時 令和6年1月17日(水) 10:30 ~ 12:00

会 場 オンライン (Zoom)

対 象 コンソーシアム準備委員会会員、オブザーバー、協力機関

テーマ 属人化の解消

講 師 講義「課題の洗い出し」
高野 真規 氏 (たかの社会保険労務士事務所代表)
事例紹介「属人化解消の取組事例」
樋山 智明 氏 (株式会社サカタ製作所取締役)

参加者 22名

5-2 ダイバーシティ連携機関・協力機関会合 兼 えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム 準備委員会総会

本事業の連携機関、協力機関及びコンソーシアム準備委員会の会員が共に事業を実施し、女性研究者・技術者等の活躍促進を図ることを目的として毎年、開催している。

<令和4年度>

「第4回ダイバーシティ連携機関・協力機関会合 兼 第1回えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会総会」の開催

日 時 令和4年11月30日（水）15：00 ～ 16：00

会 場 Zoom によるオンライン会議

テーマ ダイバーシティ推進やコンソーシアム参画で得られること、得たいこと

出席機関 連携機関：長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校、株式会社イトラスト
協力機関：長岡造形大学、株式会社大光銀行、たかの社会保険労務士事務所、
株式会社ソリマチ技研、株式会社ブルボン、株式会社有沢製作所、
ユニオンツール株式会社、北越コーポレーション株式会社研究所

<令和5年度>

「第5回ダイバーシティ連携機関・協力機関会合 兼 第2回えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会総会」の開催

日 時 令和5年11月29日（水）15：00 ～ 16：00

会 場 Zoom によるオンライン会議

テーマ ダイバーシティ推進にあたり、各機関が抱えている課題など

出席機関 連携機関：長岡技術科学大学、長岡工業高等専門学校、株式会社イトラスト
協力機関：長岡市、たかの社会保険労務士事務所、株式会社トップライズ、
株式会社サカタ製作所、株式会社ブルボン、株式会社有沢製作所、
北越コーポレーション株式会社研究所、ユニオンツール株式会社、
一般社団法人新潟県電子機械工業会

6 広報活動

6-1 ニュースレター発行

本事業の活動を学内外に広く周知するため、年1、2回程度ニュースレターを発行している。日本語版だけでなく英語版も発行し、ホームページに掲載している。

<日本語版>

ニュースレターNo.8



ニュースレターNo.9

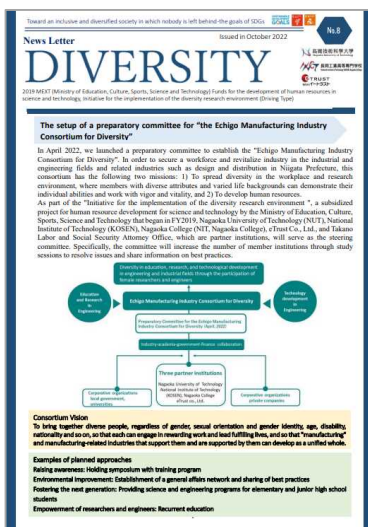


ニュースレターNo.10



<英語版>

ニュースレターNo.8



ニュースレターNo.9



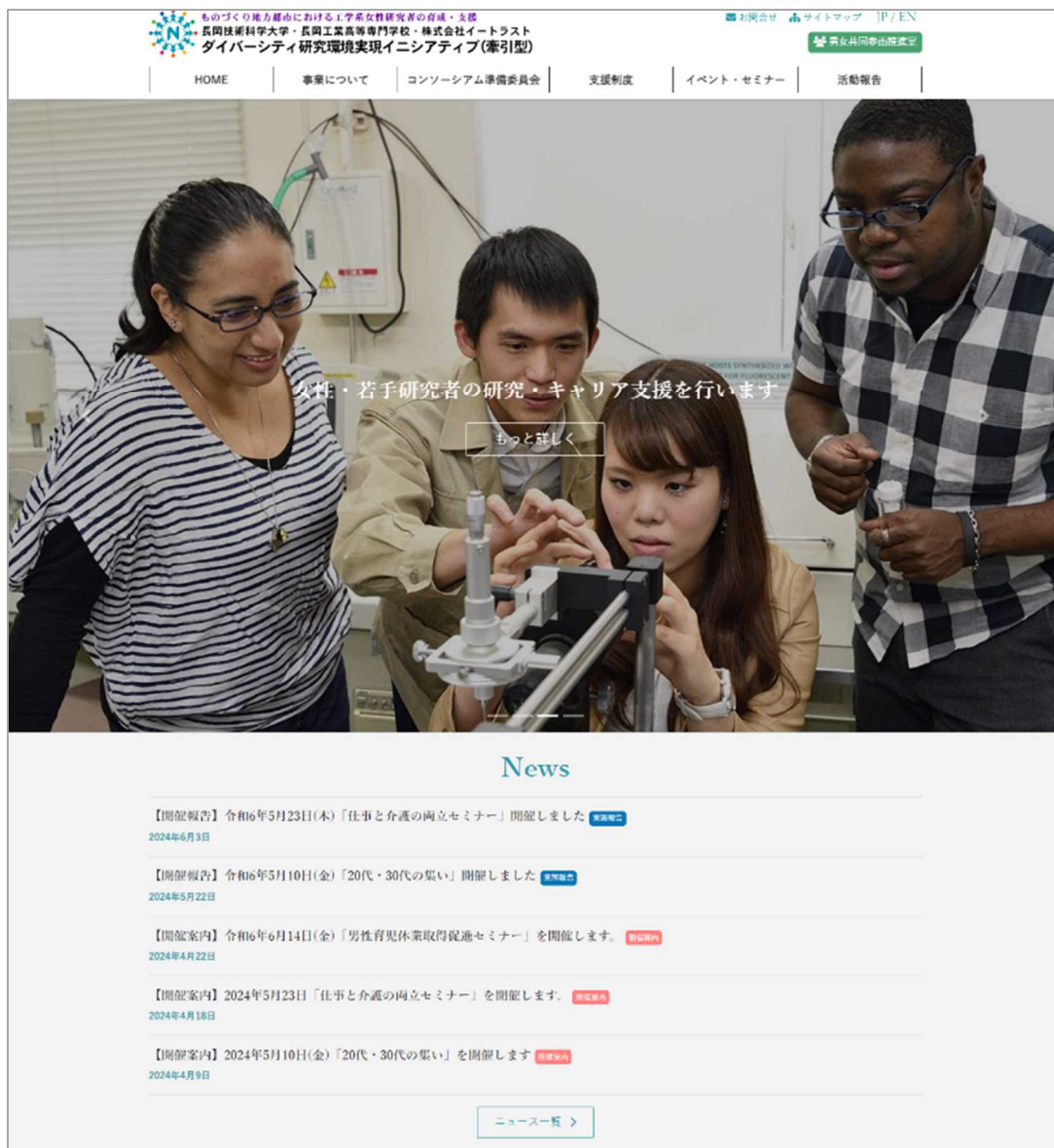
ニュースレターNo.10



6-2 ホームページによる情報発信

本事業の活動をPRするためのホームページを作成し、積極的にイベント案内や各種支援制度の周知などの情報発信を行った。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型) (3機関ホームページ)



<https://gender.nagaokaut.ac.jp/>



Ⅲ. 連携機関活動記録

令和 4 年度

月 日	活 動 内 容
4 月 1 日	共同実施機関総括責任者が小林幸夫校長に交代となった。(長岡高専)
4 月 6 日	連携 3 機関の実務担当者打合せを開催した。(オンライン)
4 月 18 日	第 1 回連携推進会議を開催し、えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会(以下、コンソーシアム準備委員会)規約の改定及び参画機関依頼について審議・決定した。(メール審議)
5 月 12 日	コンソーシアム準備委員会第 1 回運営委員会及び、連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。(オンライン)
6 月 8 日	コンソーシアム準備委員会第 2 回運営委員会及び、連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。(オンライン)
6 月 8 日	長岡技科大研究戦略本部と共催で第 1 回科研費講演会を開催し、本事業担当 UEA が「ライフイベントによる研究中断／繰越について」をテーマに講演を行った(参加者数：71 名)。(オンライン、長岡技科大)
6 月 9 日	第 2 回連携推進会議を開催し、令和 4 年度ダイバーシティ事業計画書について審議・決定した。(メール審議)
6 月 23 日	第 3 回連携推進会議を開催し、株式会社ヨネックス新潟工場の協力機関としての参画について審議・決定した。(メール審議)
6 月 29 日	大学院授業「ダイバーシティから考える社会人力形成論」において、コンソーシアム準備委員会会員企業と学生との交流会を実施した(参加企業 3 社、参加者数 92 名)(オンライン、長岡技科大)
7 月 6 日	コンソーシアム準備委員会第 3 回運営委員会及び、連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。(オンライン)
7 月 25 日	全国ダイバーシティネットワーク組織関東・甲信越ブロック会議に長岡技科大及び長岡高専から各 1 名が参加した。(オンライン)
8 月 3 日	コンソーシアム準備委員会第 4 回運営委員会及び、連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。(オンライン)
8 月 6 日	長岡技科大オープン・キャンパスにおいて、「女子対象 高校生・高専生と技大生の交流会」を実施した(参加者数 19 名、長岡技科大)
9 月 7 日	コンソーシアム準備委員会第 5 回運営委員会及び、連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。(オンライン)
9 月 22 日	第 4 回連携推進会議を開催し、令和 4 年度ダイバーシティ事業シンポジウム計画及び、第 1 回えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会総会(兼第 4 回ダイバーシティ連携機関・協力機関会合)開催要領について審議・決定した。
10 月 5 日	コンソーシアム準備委員会第 6 回運営委員会及び、連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。(オンライン)
10 月 24 日	マッチング・ハブ長岡(産学官金連携イベント)に参加し、本事業とコンソーシアム構想についてポスター展示を行った(アオーレ長岡)。
10 月 31 日	ニューズレター第 8 号(和文)を発行した。(長岡技科大)

月 日	活 動 内 容
11 月 8 日	コンソーシアム準備委員会第 7 回運営委員会及び連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。(オンライン)
11 月 29 日	研究力向上セミナー「印象的な研究発表のためのテクニックと戦略を学ぶ」(附属図書館主催)を共催した。(参加者数:125 名)(オンライン、長岡技科大)
11 月 30 日	ダイバーシティ事業シンポジウム兼 FD 研修(講師:渥美尚喜氏)を開催した。(参加者 86 名、オンライン)
11 月 30 日	えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会総会(第 4 回ダイバーシティ連携機関・協力機関会合)を開催した。(参加機関 12 機関、オンライン)
12 月 7 日	コンソーシアム準備委員会第 8 回運営委員会及び、連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。(オンライン)
12 月 9 日	全国ダイバーシティネットワーク・シンポジウムに参加した。(オンライン)(長岡技科大)
12 月 13 日	第 5 回連携推進会議を開催し、株式会社トップライズの「えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会」への会員(運営委員会)及び協力機関としての参画について審議・承認した。(メール審議)
12 月 16 日	「優れた女性研究者賞」の見直し検討会を実施した。(オンライン、長岡技科大、長岡高専)
1 月 18 日	コンソーシアム準備委員会第 9 回運営委員会及び、連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。(オンライン)
1 月 26 日	高専教員体験会 1 日目(専攻科特別研究発表会の聴講)を実施し、長岡技科大 2 名、新潟大学 1 名の参加があった。(長岡高専)
2 月 1 日	連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。(オンライン)
2 月 6 日	第 4 回外部評価委員会を開催した。(オンライン)
2 月 9 日	全国ダイバーシティネットワーク第 2 回関東・甲信越ブロック会議に参加した。(オンライン)
2 月 9 日	高専教員体験会 2 日目(授業見学、施設見学、特別活動の運営)を実施し、長岡技科大 2 名、新潟大学 1 名の参加があった。(長岡高専)
2 月 22 日	ロールモデル講演会を開催し、長岡高専と長岡技科大から 20 名の参加があった。(オンライン、長岡高専)
2 月 27 日	女性研究者・技術者のための管理職セミナー及びキャリア・アップ交流会を開催(講師:佐々木順子長岡造形大学理事長)し、12 名の参加があった。(NaDEC BASE)
3 月 1 日	コンソーシアム準備委員会第 10 回運営委員会及び、連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。(オンライン)
3 月 15 日	「優れた女性研究者賞」の第 2 回見直し検討会を実施した。(オンライン、長岡技科大、長岡高専)
3 月 17 日	介護準備セミナーを開催し、29 名の参加があった。(オンライン、長岡技科大)

令和 5 年度

月 日	活 動 内 容
4 月 28 日	ニューズレター第 9 号を発行した。
5 月 23 日	コンソーシアム準備委員会第 1 回運営委員会及び連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。
6 月 15 日	第 1 回ダイバーシティ連携推進会議を開催し、ダイバーシティ研究環境実現シンポジウムについて審議、決定した（メール審議）。
6 月 23 日	コンソーシアム準備委員会第 2 回運営委員会及び連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。
6 月 23 日	優れた女性研究者賞検討委員会を開催した。
6 月 28 日	第 2 回ダイバーシティ連携推進会議を開催し、令和 4 年度ダイバーシティ事業報告書及び令和 5 年度事業計画書について審議、決定した（メール審議）。
6 月 28 日	大学院授業「ダイバーシティから考える社会人力形成論」において、コンソーシアム準備委員会会員企業と学生との交流会を実施した（参加企業 4 社、参加者数 189 名）。
7 月 5 日	コンソーシアム会員企業であるヨネックス株式会社との情報交換を行った。
7 月 26 日	コンソーシアム準備委員会第 3 回運営委員会及び連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。
7 月 26 日	長岡技科大研究戦略本部と共催で第 1 回科研費講演会を開催し、本事業担当 UEA が「ライフイベントによる研究中断/繰越について」をテーマに講演を行った（参加者 96 名）
8 月 16 日	株式会社イートラストで実施されたインターンシップに長岡高専の女子学生 1 名が参加した。（8 月 16 日～8 月 22 日）
8 月 30 日	第 3 回ダイバーシティ連携推進会議を開催し、令和 5 年度連携協力機関会合兼コンソーシアム総会及び「女性躍進賞」「女性新進賞」表彰制度について審議、決定した（メール審議）。
9 月 19 日	コンソーシアム準備委員会第 4 回運営委員会及び連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。
9 月 21 日	第 4 回ダイバーシティ連携推進会議を開催し、ニューズレター 10 号及び「女性躍進賞」「女性新進賞」選考委員会について審議、決定した（メール審議）。
9 月 26 日	Matching HUB NAGAOKA2023（産学官金連携イベント）にコンソーシアムとして出展し、本事業とコンソーシアム構想についてポスター展示を行った。
9 月 26 日	ニューズレター第 10 号を発行した。
10 月 17 日	コンソーシアム準備委員会第 5 回運営委員会及び連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。
11 月 1 日	女性躍進賞・新進賞選考委員会を開催した。
11 月 21 日	第 5 回ダイバーシティ連携推進会議を開催し、令和 5 年度外部評価委員会委員及び「女性躍進賞」受賞者の決定について審議、決定した（メール審議）。
11 月 23 日	Waffle Camp（女性中高生対象プログラミング講座）を開催した。（参加者数 8 名）
11 月 29 日	ダイバーシティ研究環境実現シンポジウムを開催した。（参加者数 210 名）
11 月 29 日	第 5 回ダイバーシティ連携機関・協力機関会合兼第 2 回えちご・ものづくりダイバーシティ・コンソーシアム準備委員会総会を開催した。（参加者数 14 名）
11 月 25 日	3 大学 1 高専によるオレンジ・デー啓発の取組を実施した。（11 月 25 日～12 月 10 日まで）
12 月 13 日	優れた女性研究者賞を「女性躍進賞」「女性新進賞」に改め、女性躍進賞受賞者 1 名の顕彰を行った。
12 月 13 日	女性のロールモデル講演会を開催した。（参加者数 22 名）

月 日	活 動 内 容
12 月 19 日	コンソーシアム準備委員会第 6 回運営委員会及び連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。
1 月 11 日	高専教員体験会 1 日目を実施し、4 名の参加があった。(長岡高専)
1 月 16 日	コンソーシアム準備委員会第 7 回運営委員会及び連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。
1 月 17 日	コンソーシアム準備委員会勉強会を開催した。(参加者数 22 名)
1 月 23 日	第 6 回ダイバーシティ連携推進会議を開催し、令和 5 年度外部評価委員会について審議、決定した(メール審議)。
1 月 26 日	高専教員体験会 2 日目を実施し、4 名の参加があった。(長岡高専)
2 月 20 日	コンソーシアム準備委員会第 8 回運営委員会及び連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。
2 月 20 日	女性のための管理職セミナーを開催した。(参加者数 33 名)
3 月 19 日	コンソーシアム準備委員会第 9 回運営委員会及び連携 3 機関実務担当者打合せを開催した。
3 月 21 日	付属図書館との連携により英語論文セミナーを開催した。(参加者数 47 名)
3 月 21 日	令和 5 年度外部評価委員会を開催した。

DIVERSITY

令和4、5年度活動報告書

令和6年6月発行

発 行 国立大学法人長岡技術科学大学
独立行政法人国立高等専門学校機構 長岡工業高等専門学校
株式会社イトラスト
連絡先 長岡技術科学大学 ダイバーシティ研究環境推進部門
〒940-2188 新潟県長岡市上富岡町 1603-1
TEL/0258-47-9911 FAX/0258-47-9939
e-mail danjo@jcom.nagaokaut.ac.jp
HP <https://gender.nagaokaut.ac.jp/>